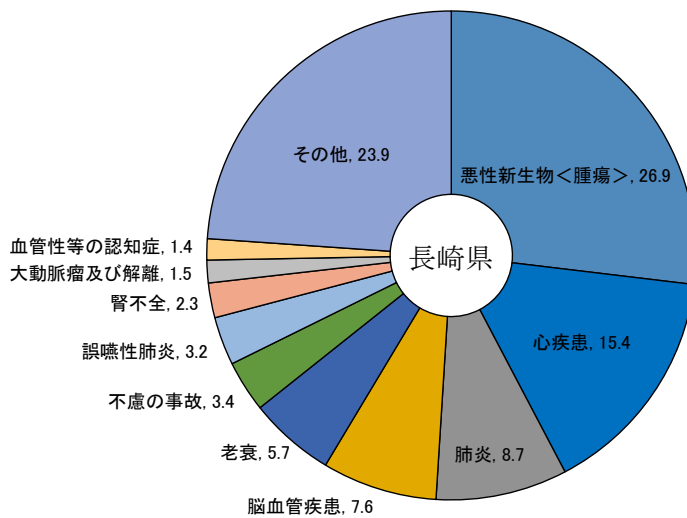
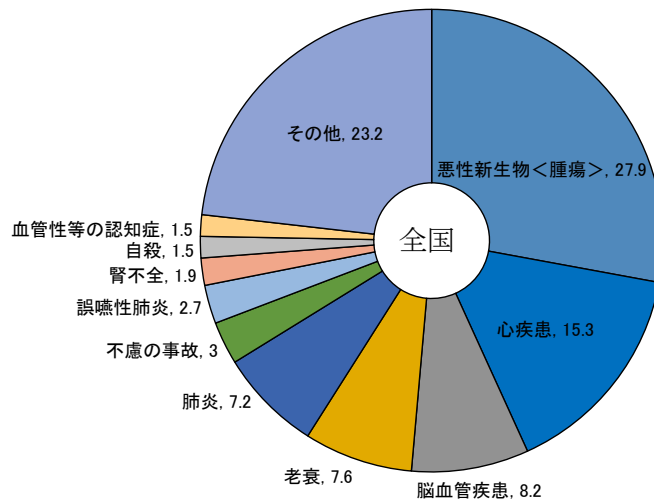


死因別死亡の概況



平成29年における本県の死亡数は、17,515人で、前年より444人増加し、人口千人当たりの死亡率は13で、前年より0.4ポイント高くなっている。

なお、全国の死亡率10.8との比較では2.2ポイント高い（全国順位15位）。

死亡順位・死亡率（人口10万対）を主要死因別にみると、第1位 悪性新生物〈腫瘍〉350.2、第2位 心疾患200.9、第3位 肺炎112.8、第4位 脳血管疾患99.0、第5位 老衰74.4であり、いわゆる三大死因の一つである脳血管疾患を肺炎が上回っている。

なお、本県の悪性新生物による死亡率は、全国の299.5に比べて50.7ポイント高い（全国順位9位）。

また、悪性新生物の死亡率（人口10万対）を部位別にみると、男では、気管、気管支及び肺102.1、胃45.7、肝及び肝内胆管34.7の順に高く、女は、気管、気管支及び肺41.7、結腸34.6、膵31.2、の順となっている。

（県福祉保健課）